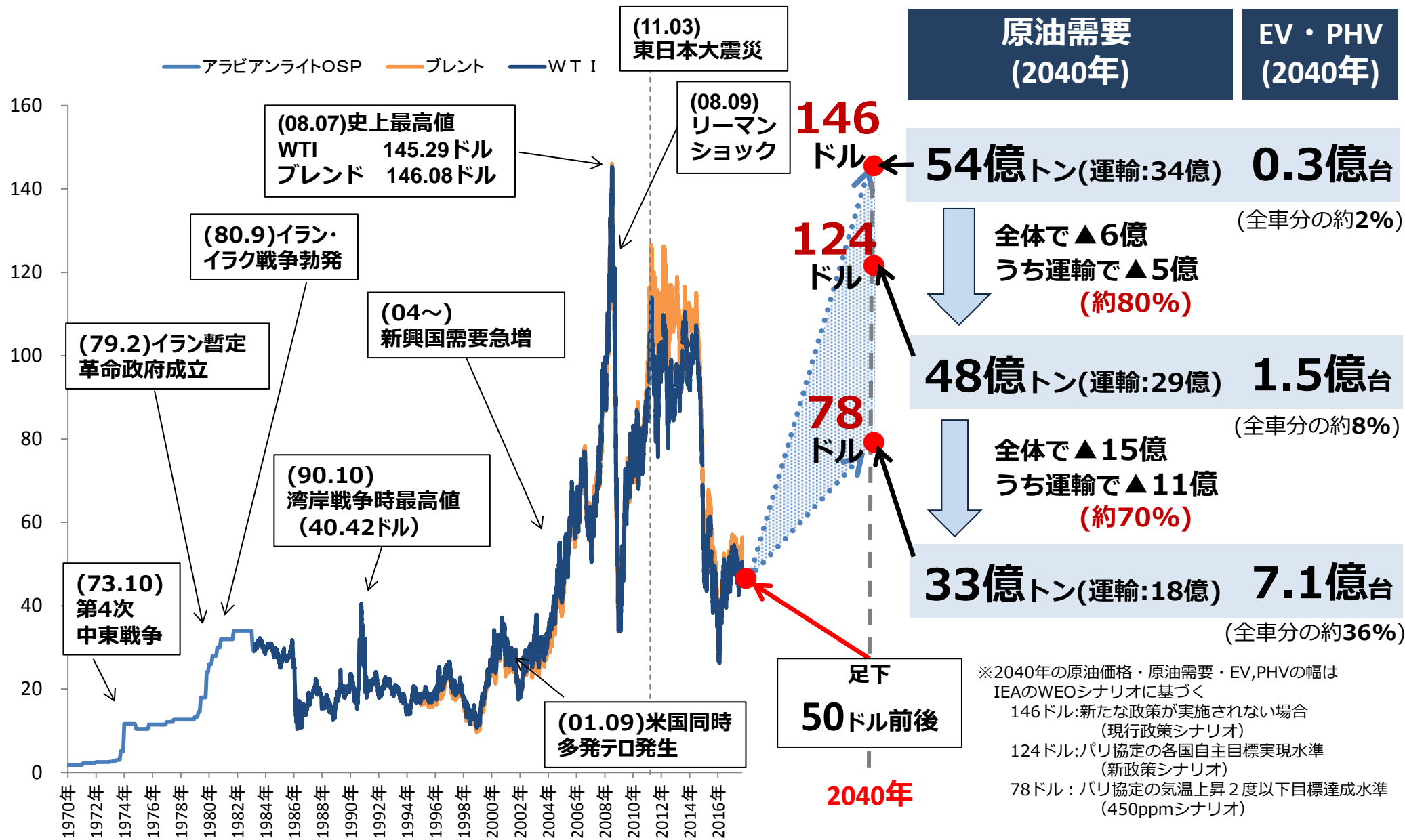


# 資源、地政学、国家戦略

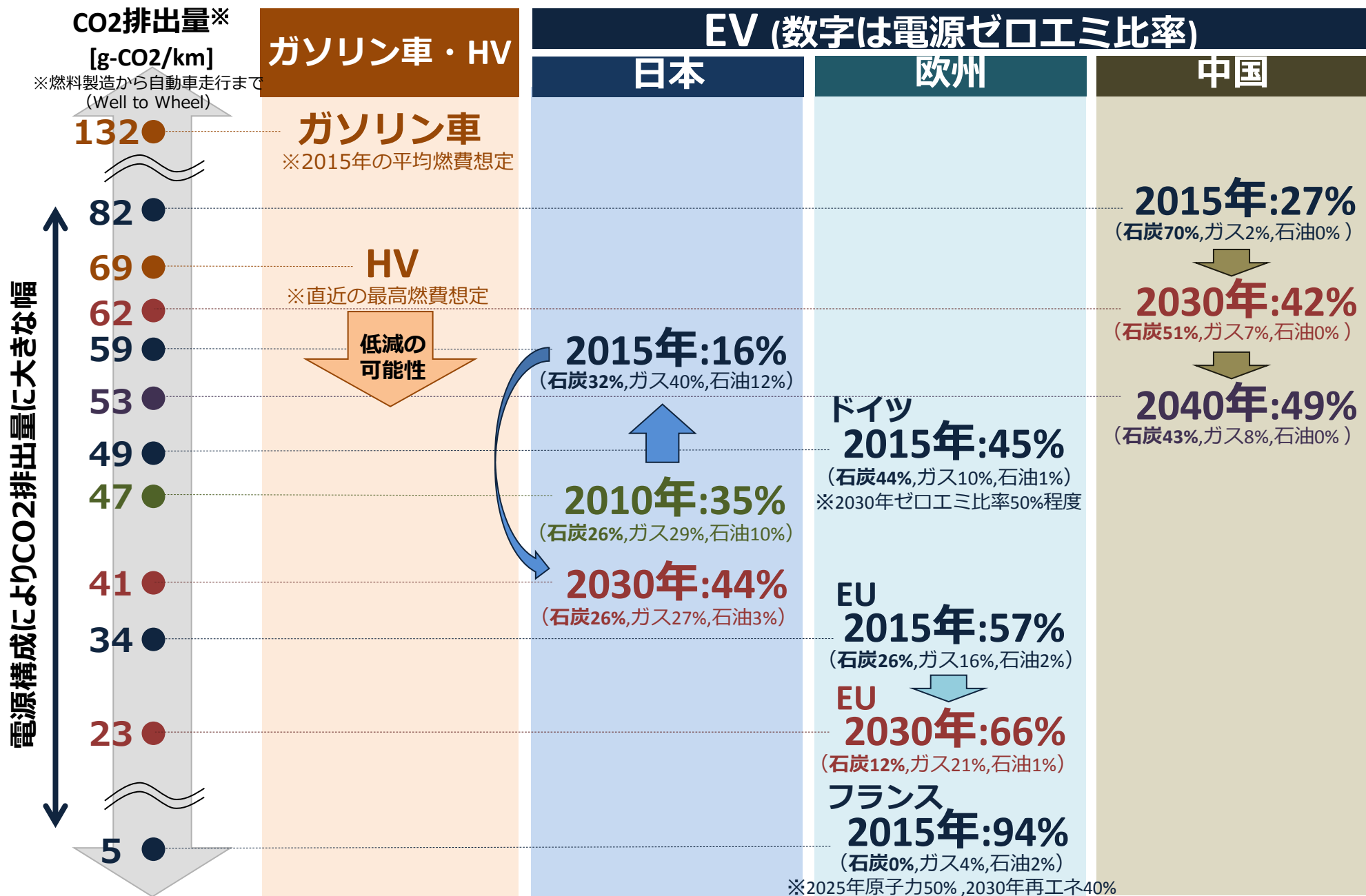
平成29年9月29日  
資源エネルギー庁

# 油価は変動を繰り返し、足下50ドル。長期の資源価格をどう考える？



※ 1983年にWTI先物 (NYMEX) とブレント先物 (IPE、現ICE) が上場。  
 ※ 価格はバレル当たり、需要は原油換算。  
 ※ 運輸部門の需要減少には燃費改善等他の要因も寄与。EV・PHVの普及は一例。

# (参考) EV化のCO2インパクトはゼロエミ比率により大きく異なる



出所：日本自動車研究所、IEA Energy Balances、WEO2016等を基に試算

※欧州・中国のライフサイクル計算には一部日本の想定を適用

# 日本は、資源に乏しく、**自給率が特に低い**。長期的にどうあげていくか。

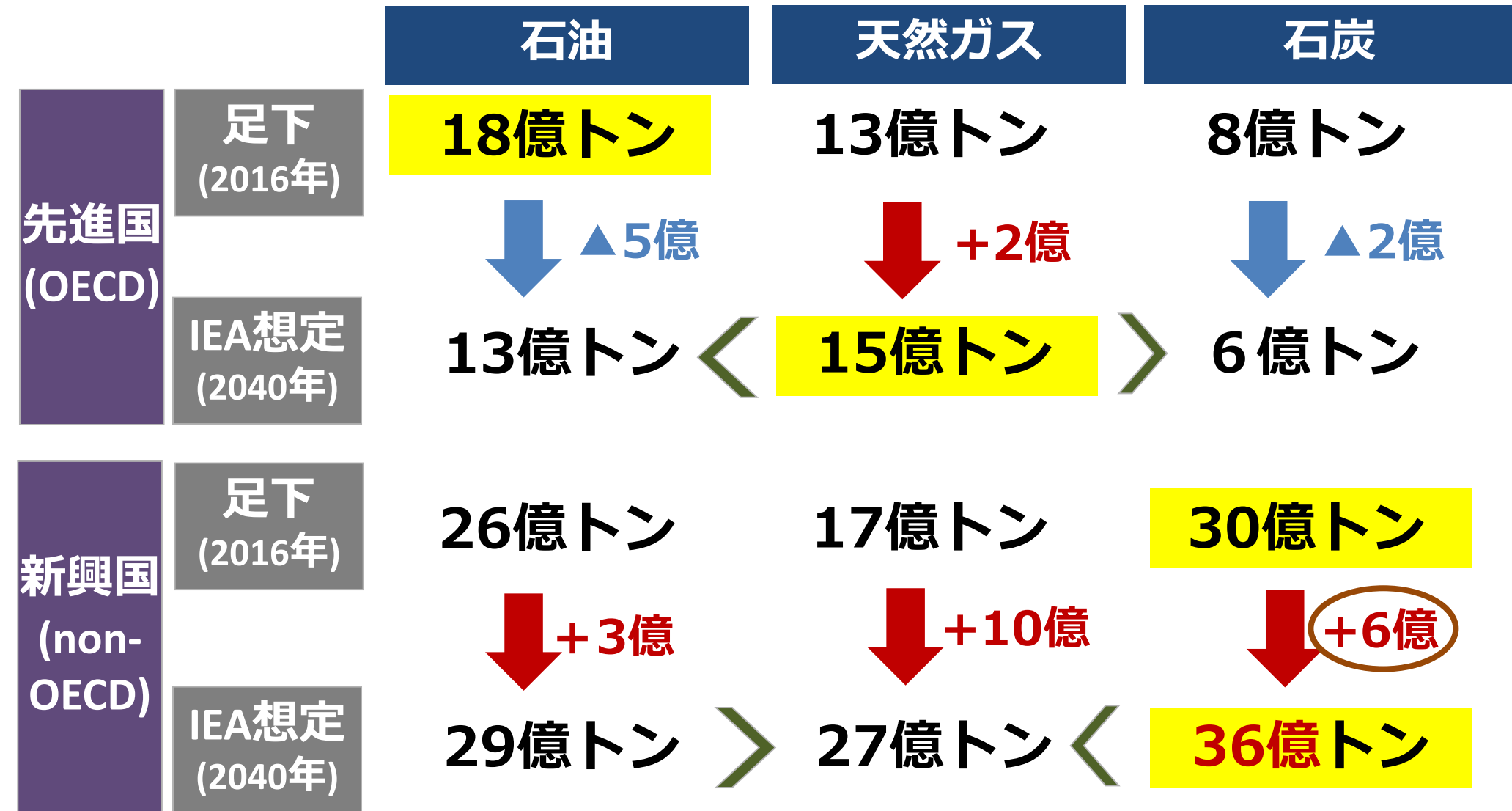
	自給率 (2000年)		自給率 (2016年) <small>※中印は2015年</small>	主な 国産資源
米	73%	↗	88%	天然ガス 石炭・石油
英	74%	→	67%	石油
独	40%	→	37%	石炭
仏	52%	→	54%	原子力
中	98%	↘	84%	石炭
印	80%	↘	65%	石炭
日	20%	↘	<b>8%</b>	無し

# 日本は、特に中東に依存して輸入。長期的な中東情勢は？

	石油			ガス		
	輸入依存	うち中東	最大輸入先	輸入依存	うち中東	最大輸入先
米	41%	8%	15% → パイプライン カナダ 連結	3%	0%	3% → パイプライン カナダ 連結
英	22%	1%	12% → パイプライン ノルウェー 連結	46%	10%	32% → パイプライン ノルウェー 連結
独	96%	4%	37% → パイプライン ロシア 連結	90%	0%	44% → パイプライン ロシア 連結
仏	97%	25%	15% → タンカー サウジアラビア ※欧州大でパイプライン連結 輸送	99%	2%	40% → パイプライン ノルウェー 連結
中	61%	31%	9% → タンカー サウジアラビア ※ロシア等とパイプライン連結 輸送	29%	4%	15% → パイプライン トルクメニスタン 連結
印	83%	46%	15% → タンカー サウジアラビア ※パイプライン無し 輸送	40%	25%	22% → タンカー カタール ※パイプライン無し 輸送
日	99%	85%	37% → タンカー サウジアラビア ※パイプライン無し 輸送	98%	23%	28% → タンカー オーストラリア ※パイプライン無し 輸送

出所：IEA・Energy balances他から資源エネルギー庁作成 ※中・印は2015年のデータ

# 先進国はガスシフトも、新興国は石炭依存が継続見込み。 日本のCO2削減への貢献のあり方は？



出所：IEA・WEO2016等 (New Policy シナリオ)

※単位：原油換算トン。